



Title	ニュータウンにおける街角施設の発生実態からみた街角施設の導入手法に関する研究
Author(s)	伊丹, 康二
Citation	大阪大学, 2003, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/695">https://hdl.handle.net/11094/695</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名 <sup>い</sup>伊 <sup>たみ</sup>丹 <sup>こう</sup>康 <sup>じ</sup>二

博士の専攻分野の名称 博 士 (工 学)

学 位 記 番 号 第 1 7 8 6 9 号

学 位 授 与 年 月 日 平成 15 年 3 月 25 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 4 条第 1 項該当

工学研究科建築工学専攻

学 位 論 文 名 ニュータウンにおける街角施設の発生実態からみた街角施設の導入手法に関する研究

論 文 審 査 委 員 (主査)

教 授 柏原 士郎

(副査)

教 授 舟橋 國男 教 授 吉田 勝行 助教授 横田 隆司

## 論 文 内 容 の 要 旨

土地利用の用途が明確に規定され、用途純化を目指してきた戦後のニュータウンに対して、すでに多くの研究によって用途純化による問題点が指摘されている。また、欧米の持続可能性に向けた動きをみても、用途純化から適度な用途混合への必要性が理解できる。本研究で扱う街角施設の導入とは、住宅と地域施設の混在手法を指し、ニュータウンの地区レベルでの用途混合に向けた一手法である。

本研究ではまず、ニュータウンの計画時から街角施設を導入しておらず、街開きから数十年経過したニュータウンを対象とした街角施設の発生実態や、街角施設を導入したニュータウンにおける導入手法の検証、評価をもとに、街角施設の発生が人間の自然な行為であることを理解し、そこに法則性を求めた。さらに、街角施設の導入手法による効果を評価、街角施設の課題の抽出などを行い、それらの結果をもとに、ニュータウンにおける街角施設の導入手法に関して提言を行うことを目的とした。

論文の構成は以下の通りである。

第 1 章では、現在のニュータウンにおける問題点から、秩序ある用途混合の必要性を確認し、本研究の目的や意義について述べた。

第 2 章では、街角施設を計画的に導入していないニュータウンにおいて、自然発生による街角施設の発生実態、およびその分布実態を明らかにした。

第 3 章では、街角施設の複雑な発生要因の中で、ニュータウンの地理的条件やニュータウン計画など施設の立地条件に関する要因に着目し、自然発生による街角施設の分布実態からその要因の抽出を行った。

第 4 章では、街角施設の誘致や誘導を行ったニュータウンを中心に、それらの導入手法別にみた街角施設数、分布実態などを明らかにし、各導入手法の効果を明らかにした。

第 5 章では、街角施設の誘致や誘導を行ったニュータウンの住民意識調査により、現在の地域施設体系を見直した。さらに、同時に街角施設の可能性を確認し、すでに実施されている街角施設の誘導手法の再検討を行った。

第 6 章では、今後の街角施設の導入施策を検討するため、戸建て住宅地における街角施設の外部空間を観察調査し、街角施設の課題や問題点を指摘した。

第 7 章では、第 1 章から第 6 章の結果をもとに、今後の街角施設の誘導施策について提案を行い、街角施設の果た

す可能性について私見を含めて述べた。

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、近年、社会学など多方面で取り上げられているニュータウン問題の中で、住宅用地の用途を限定する計画手法が住民の利便性や街の柔軟性を損ねると同時に、活性化を阻害している要因であるとして、住宅用地に街角施設を導入する手法について検討、提案したものである。本研究の成果を要約すると次の通りである。

- (1) 街角施設を計画的に導入していないニュータウンおよび、街角施設の誘致や誘導を行ったニュータウンにおいて、街角施設の発生実態、およびその分布実態を明らかにし、比較検討することにより各導入手法の効果を明らかにしている。
- (2) 街角施設の複雑な発生要因の中で、ニュータウンの地理的条件やニュータウン計画など施設の立地条件に関する要因に着目し、自然発生による街角施設の分布実態から、道路計画や地域施設の配置が発生要因として抽出している。
- (3) ニュータウンの住民を対象とした意識調査により、街角施設の有益性を明かし、すでに採用されている街角施設の導入手法を再検討している。同時に現在の地域施設体系を見直し、施設体系の再編の方向性を示している。
- (4) 今後の街角施設の導入施策を検討するため、戸建て住宅地における街角施設の外部空間を観察調査し、駐車スペースや閉店後の対策など、街角施設の課題や問題点を指摘している。
- (5) 地域施設の整備にあたっては、公共施設を含めた日常生活に必要最低限の地域施設は計画時に誘致する必要があり、その上で、誘致された地域施設を補い、住民の選択性を確保するために、街角施設の誘導が重要な手法になることを指摘している。

以上のように、本論文は近年、多方面で議論されているニュータウンの活性化対策に対して、街角施設の導入手法と意義の観点から多面的にアプローチしたものであり、今後のニュータウン計画あるいは、すでに建設されたニュータウンの活性化に対して大きな示唆を与えうると判断する。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。